

10/6(木)、7(金)に山形市で開催された、第67回日本聴覚医学会に出席しました。学会参加は今年度2回目です。カスタネット通信11月号では学会とはなにか、そして7月号で紹介した日本言語聴覚学会(新潟)では行わなかった“発表”、についてお話しします。

言語聴覚士と学会



成人言語・認知 摂食・嚥下

小児言語・認知 発声・発語

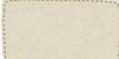
聴覚 その他

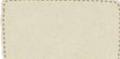
左に言語聴覚士(ST)が対象とする、障害領域を挙げました。**紺太字**で書いたものが、オギジビのSTが対象としている領域です。

Wikipediaによれば、「学会は学問や研究の従事者らが、自己の研究成果を公開発表し、その科学的妥当性をオープンな場で検討論議する場である。」とされています。

● 日本言語聴覚学会

● 関連学会

STが参加する学会には大きく分けて2つあります。6月に参加した『日本言語聴覚学会』と『関連学会』です。日本言語聴覚学会はSTの学会なので、参加するのはSTです。発表内容は  内の障害領域全てで、多岐にわたります。

一方、関連学会とは  内のそれぞれの障害領域に関わる様々な職種の人が参加します。例えば今回参加した日本聴覚医学会はSTだけでなく耳鼻咽喉科医、認定補聴器技能者などが参加し、**聴覚** に関係する話題について検討論議します。

学会発表



Wikipediaによる学会の定義を上述しましたが、医療の領域では日々研究していることや、日常の臨床で得た知見をまとめて発表します。

前向き研究



薬A 薬B

●●という症状に対し、薬A、Bどちらが有効か、薬を投与して比較検討

後ろ向き研究



過去●年間の臨床を振り返り、その治療法の効果について検討

症例報告



あるひとりの患者に焦点を当て、その治療経過などを報告

研究の方法は簡単に説明すると、左に示したように前向き研究と後ろ向き研究があります。これらはたくさんの人のデータを集め、それを数値としてまとめて発表します。発表には、ひとりのデータをまとめて発表する「症例報告」という形態もあります。

学会に参加し、発表を行うことの利点は

- 👉 目標をもって日々の臨床に取り組む気持ちが生まれる
- 👉 自分たちが行ってきたことを振り返り、良かったところや改善点を見つけられる
- 👉 自分たちの取り組みを他施設の人に伝えることができる
- 👉 他施設の発表を聞くことで新たな見識を得られる

といったことです。大変なことは、時間をかけて準備をする必要があるということです。



山形には山形新幹線で行きました。今回は停車中だったので、ピントの合ったカッコいい『E3系つばさ』の写真が撮れました。学会は駅直結の「やまぎん県民ホール」と「山形テルサ」の2カ所の会場で行われました。

私たちは1日目の午後に『聞こえにくさの自己認識と補聴器適合』というタイトルで演題発表を行いました。おぎはら耳鼻咽喉科がオープンしてから約2年の補聴外来のデータを

まとめた報告です。表面で説明をした「後ろ向き研究」にあたります。オギジビには聞こえにくさを主訴に受診する方が多くいらっしゃいます。受診の契機で分類すると、① 聞こえにくさや困り感の認識が具体的で明確な方、② 漠然とした認識の方、③ 家族に促されて受診をした方となります。これらの3群の方々の聴力や年齢、補聴器購入の有無などを比較検討しました。また、試聴開始時には装用にあまり前向きではなかった方が補聴器を有効活用できるまでの経過を報告しました。参加者は補聴器装用への意欲が低い方への



言語聴覚士の介入に興味を持ってくださったようでした。

他施設の発表では、聞こえの観点から介護予防に取り組むヒアリングフレイルという考え方や、難聴のお子さんたちへ切れ目ない支援をするための他施設連携といったものがありました。発表をヒントに自分たちの臨床にも取り入れていきたいと考えました。

山形観光



学会参加の楽しみには、開催地の名物を食べることも、名所を訪れることもあります。今回は山形から仙山線で15分の場所にある山寺に行ってきました。8時の開門に合わせてホテルを出発、朝活です。山寺は正式名称「宝珠山立石寺」といい、860年に清和天皇の勅願によって慈覚大師円仁が開いた天台宗のお山です。

山寺駅で大きな荷物をロッカーに入れている方にお会いしました。山寺に魅了されてもう10回以上登っているとおっしゃっていました。御年81だそうです。永平寺、金沢駅の鼓門、山寺を周り、千葉の自宅に帰る3泊4日の旅の途中で、下山後は仙台に向かうとのことでした。「旅することが生きがい」とお話ししてくださいました。



(左) 早朝に訪れたため、駅には誰もいません。

(右) 山肌に建てられたお堂



断崖に突き出す五大堂から見た景色。

山寺は松尾芭蕉が「閑さや 岩にしみ入る 蝉の声」の句を詠んだことでも有名ですが、芭蕉にも負けず劣らずの健脚だと思いました。上にヒアリングフレイルのことを書きましたが、日頃から運動の習慣をつけ、健康寿命を延ばし、年齢を重ねても趣味の活動を楽しめると良いなと思いました。

門前町には「山寺力こんにやく」や「サクランボソフトクリーム」などの名物があったようですが、9時前には下山したため、未だ開店していなかったのが残念でした。

